

## 平成26年度 学校評価実施報告書

学校番号 33 学校名 千葉県立船橋法典高等学校 課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況・結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学 校 経 営	<p>① ホームページによる情報発信に努めており、中学生及び保護者の多くが閲覧しているが、在校生の保護者アンケートでさらに頻繁な更新が要望された。</p> <p>学校評価アンケートによると、「入学前に本校の特色を知っていた」生徒60.9% 保護者56.7%と、4割近くの入学者が本校の特徴を知らずに入学していることが分かった。</p> <p>入学後には、「本校に入学して良かったと思う」生徒76.7% 保護者91.7%となるので、入学前の情報提供をさらに工夫したい。</p> <p>② 災害時等の情報発信方法を改善した。昨年度、携帯電話からのアクセスを可能にしたが、本年度は、メールの一斉配信システムを導入した。</p> <p>③ 発足3年目の若手モラールアップ委員会は、ユニバーサルデザインの考え方による授業研究、不祥事防止研修への参加の他、他校での研究発表会や外部機関での研修に積極的に参加する等の活動を行っている。</p> <p>④ 学校説明会への参加者は、第1回(夏)669名(昨年718)、第2回(秋)332名(昨年375)で人数はやや減ったが、「本校を第一希望に考えている」「志願倍率が高く人気のある学校だ」などのアンケート記入があり、本校への関心が低いのではないことが分かる。</p> <p>内容は、アンケート結果から学校、生徒の様子がよく分かったと好評であった。</p> <p>⑤ 広報活動について、学校案内のデザインを一新するとともに、さらに見やすく、特徴を分かりやすく刷新し、印刷部数を大幅に増やして各説明会等で配布した。</p> <p>「一校1キラッ！」マップを漫画仕立てにして中学生にとって分かりやすく工夫し、続編も制作して各説明会等で配布した。「優秀賞」をいただくことができた。</p> <p>中学校校訪問は、これまで手薄だった松戸地区全校に拡大した。</p>	<p>① ホームページについて、昨年確立した更新体制をさらに活用して、単なる「お知らせ」にとどまらず、中学生等が継続的に閲覧したくなる内容を工夫していきたい。</p> <p>個人情報の保護については、生徒及び保護者の承諾を取り付ける仕組みを整えた。携帯電話等から学校の情報閲覧ができるシステムを構築した。</p> <p>② メールの一斉配信システムは、年度途中の導入だったため、登録者数が少ない。災害時に限らず、普段から学校情報を提供するなどしながら、登録者数を増やしたい。</p> <p>③ 若手モラールアップ委員会の活動は自発的になってきているものの、個人的な活動が中心となっている。若手が協働する取組を検討したい。</p> <p>④ 本校への中学生の関心は高い。中学生にとって、「とりあえず行ってみる」学校から「志望校として考える」学校になっていることが感じられる。期待に添えるよう学校運営の質のさらなる向上に努め、期待に応えなければならない。</p> <p>⑤ 学校案内の内容・デザインについては来年度も分かりやすく、明るい印象のものにするとともに、さらに印刷部数を増やして広報活動の中心としたい。</p> <p>「一校1キラッ！」マップは3回目の「優秀賞」を獲得したが、来年度も新しいアイデアで挑戦したい。</p> <p>松戸地区からの受検者が増加した。部活動だけでなく、学習指導、進学指導を期待される学校への改革を目指す。</p>

<p>⑥ 本校を紹介する映像資料（ビデオ）の更新に加え、画像資料（パワーポイント）を新たに作成した。中学校での説明会の他、開かれた学校づくり委員会・ミニ集会においても用いて大変好評であった。</p> <p>⑦ 「開かれた学校づくり委員会」を梃子に、地域との交流が大幅に拡大した。 吹奏楽部が地域の夏祭りで演奏したり、美術部が近隣にある特別養護老人施設に展示スペースをいただいでて作品を展示したり、PTAが青少年問題連絡協議会の活動に参加することができた。 防災に関する地域連携についても突っ込んだ話し合いをすることができたが、合同防災訓練等の実施には至らなかった。</p> <p>⑧ 生徒一人一人を大切にした指導等、学年室を中心とした体制が十分機能している。 学校評価アンケートで保護者は、 「一人一人を大切にした指導がされている」 80.8% 「適切な生徒指導が行われている」 88.7% 「生徒の相談に親身になって応じている」 82.1% と回答している。 出席率が97.2%と高いとともに、学期皆勤生徒が1学期311名、2学期279名と多くなっている。</p> <p>⑨ 各学年、生徒指導部の自己評価によると、生徒指導は、概ね成果が現れている。 アンケート結果によると生徒は、 「ルールを守って学校生活を行っている」 88.7% と考えている。</p> <p>⑩ 毎週金曜日4限に、教育相談委員会を開催し、多種多様な課題や問題を抱えている生徒たちについて、きめ細かな情報交換を行っている。 昼休み及び放課後に、相談室を訪れる生徒は、年々増加の傾向にある。</p> <p>⑪ 将来計画検討委員会は合計10回の検討会議を行い、来年度以降の具体的な提案をまとめた。 平成18年からの指導重点校の指定によって画期的に改善した本校を、単に現状維持にとどめようとするのではなく、さらに向上発展させるための方策について骨格がまとまった。</p> <p>⑫ PTA活動 通学安全委員会 下校指導           6月20日     8名                           11月28日    7名</p>	<p>⑥ 広報委員会での学校案内や「一校1キラッ！」マップ作成等の成果を踏まえ、学校ポスターや学校紹介資料（映像・画像）の制作に取り組みさせる。</p> <p>⑦ 近隣自治会からの要望もあり、各種の活動にはできるだけ協力しながら、生徒の発表の場をいただくなどの交流を定着させたい。 合同防災訓練や地域内の危険箇所、危険施設などについて一緒に考えるなどの連携を深めていきたい。</p> <p>⑧ 学年室を核に学校全体として、生徒理解が深く、個に応じた指導・支援が行われている。 インクルーシブ教育システムを念頭に置きながら、本校での特別支援教育的取組をさらに充実させたい。 インクルーシブ教育システムに関する職員研修を充実させることが課題である。</p> <p>⑨ 生徒の自己有用感を高めることに力点をおいた生徒指導「積極的生徒指導」を推進する。 平成28年度以降を見据える将来計画の中に具体化していく。</p> <p>⑩ 学校改善が進む中、基本的な生活習慣が改善しない生徒や発達障害的課題を抱える生徒がいることを踏まえ、個別指導や家庭との連携をさらに強化していく。 教育相談の内容の変容を見守ることも重要である。</p> <p>⑪ 「クラス多展開の継続」「新たな安心・安全」「学習指導委員会の設置」「モジュール授業の導入」「放課後の自己実現」を5本柱とする将来計画によって、平成28年度以降のさらなる発展を目指す。</p> <p>⑫ 学校の変容に伴ってPTA活動も活性化しており、今年度「本部役員会」を設置して理事会の議題に関する連絡調整や活動全体の企画・運営に関する機関とした。</p>
--	--

	<p>環境美化活動 10月10日 7名          広報委員会 5月31日 6名                            1月16日 6名          研修旅行 1月28日 24名          企画委員会 7月8月 14名                            9月5日 14名          総会参加者 5月31日 26名</p>	<p>また、昨年まで数名の参加にとどまっていた研修会に30名程の参加希望が集まったり、体育祭を見学する保護者が数十名いたりするなど、子どもの教育に高い関心を有する保護者が増えてきた。</p> <p>これらを踏まえ、各委員会とも、現行の活動を再検討し、より積極的に活動し、多くの会員が参加できるPTAを実現する。</p> <p>平成27年度に耐震化工事が完了することを受けて、早くも教室の冷房化についての検討が始まっている。</p>
<p>学 習 活 動</p>	<p>① 学校評価アンケート結果          「授業内容が理解できる」          生徒74.1% 保護者75.2% 職員50.9%          「分かりやすくするための工夫している」          生徒71.8% 保護者81.4% 職員90.9%          昨年同様、授業の理解度及び授業の工夫に関して、職員と生徒の認識が同期していない。</p> <p>② 学年ごとの年間計画に従って行われた朝自習が、生徒の自律的な学習の契機となり、一定の達成感を持たせることが出来た。          1学年 マナトレ（ベネッセ）、漢字検定          2学年 一般常識養成講座、漢字検定                    語彙・読解力検定          3学年 語彙・読解力検定          全学年希望者 英語検定、数学検定等</p> <p>③ 「職員間授業公開週間」を5月、9月に実施した。活発な相互授業参観や意見交換による授業の改善と向上を目指している。          外部への授業公開は、以下の日程で実施した。          「開かれた学校づくり委員会」6月13日          「保護者面談週間」 5月、11月          「授業練磨の公開日」 11月15日</p> <p>⑤ 学習意欲を持つ生徒に対して、補習等の指導を精力的に行い、県立保健医療大学・駒沢大学（公募推薦）、専修大学（自己推薦）、東洋大学（特待生）など、これまでにない結果を出すことが出来た。</p> <p>⑥ 道徳教育は1学年を中心に道徳教育を実施している。読み物教材、映像教材のほか道徳教育推進教諭が中心となって作成する独自教材も用いながら実施している。</p> <p>⑦ 人権同和教育推進委員会の企画により、1月19日に人権教育講演会（聖徳大学教授）を行った。やや難解な内容であったが、生徒は静聴していた。</p>	<p>① 昨年同様、職員の工夫と生徒の理解に関する認識が同期していない。          次期学習指導要領が諮問されたこともあり、職員の授業力向上につながる研修機会の設定や職員自身の更なる努力・工夫を求めていきたい。</p> <p>② 学年毎に目標を持って行う朝自習は、生徒の興味、関心も高く、1限目の授業に取り組む姿勢の確保に役立っている。          こうした成果を踏まえ、朝自習の時間のモジュール化を含めた抜本的な学習指導の在り方に関する検討、改革が必要なものと認識する。</p> <p>③ 職員間の授業公開週間は、多忙な時期を回避するよう時期の検討が必要である。          保護者授業参観週間中に授業参観に来校した保護者が増えていることもあり、来年度も継続して行っていく。</p> <p>⑤ 生徒・保護者の本校への期待を的確に把握し、それに答えるシステムを構築するため、平成27年度には「学習指導委員会（仮称）」を立ち上げて検討する。</p> <p>⑥ 2年間の実践から得たデータを分析するとともに、読み物及びDVD教材を利用した、本校生徒の自己啓発の向上を目指した授業展開となるよう計画を進める。</p> <p>⑦ 人権を生徒に分かりやすく丁寧に学習させる企画を実施していきたい。</p>

<p>生徒指導</p>	<p>① 週1回の教育相談委員会では、特に軽度発達障害の疑いのある生徒への対応のしかたについて情報交換及び対応の検討をしている。</p> <p>課題や悩みを抱える生徒に対しては、放課後に個人面談をするなど丁寧な対応をしている。経済的な困窮家庭や保護者が精神的に不安定な生徒もおり、そうした保護者からの相談もある。</p> <p>② 全体に遅刻・欠席生徒数は減少傾向にある。早期対応などが奏功し、1年生の2学期に改善する例が多く見られる。</p> <p>③ 問題行動カードの発行数  1年：160 2年：116 3年：91  昨年（97） （107） （63）</p> <p>全体に発行数が昨年度より増えているが、生活面で改善が見られている現状に鑑み、さらなる向上を目指して「厳しめに」発行しているためである。</p> <p>特別指導の件数は10件11名（昨年12件24名）となっている。本年は喫煙による特別指導が1件もなく、重大ないじめ等もないが、ネット関連の指導が増えている点に留意したい。</p> <p>年3回の一斉指導や学年ごとの根気強い丁寧な指導により、生徒指導面においても大きな改善が見られている。</p> <p>④ 地域からの意見  1) 通学時の自転車の乗り方に関して  2) 法典の生徒の活躍ぶりを地元さらに広報すべきである  3) 地元の催事に生徒を参加させてほしい</p> <p>⑤ 通学途上の自転車事故が多く発生した。</p>	<p>① 担任、学年の個別対応に対して、教育相談委員会が組織として支援する体制の整備を行うとともに、情報の適正な共有化について検討し、本委員会の機能を十分に活用する体制を構築したい。</p> <p>② 遅刻常習者や指導を要する生徒の固定化に対応する方策を検討・実施したい。</p> <p>③ 小さなことを見逃さない指導のため、問題行動カードの発行数はある程度仕方がないこと、継続してカード発行による指導などをきめ細かく実施していく。</p> <p>④ 自転車のマナーについての意見は、登下校時間帯に集中するため、根気よく指導を継続していく。特に新入生が慣れない自転車を運転する4月に重点的に指導していきたい。</p> <p>⑤ 大事故に至らないケースがほとんどであるため、見過ごされ勝ちにならないよう、生徒指導部を中心に、学校全体の取組として継続していく必要がある。</p> <p>P T Aの通学安全委員会の活動や青少年問題連絡協議会との連携による指導等をさらに丁寧に行うようにする。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>① 生徒の発達段階に応じたキャリア教育を計画的に実施した。</p> <p>1年：進路全般説明会（1回）  分野別進路ガイダンス（1回：外部）  上級学校見学会（1回：外部）</p> <p>2年：進路全般説明会（1回）  卒業生講話（1回）  分野別進路ガイダンス（1回：外部）  インターンシップの実施（7名）</p> <p>3年：進路全般説明会（1回）  大学・短大説明会（3回）  専門学校説明会（3回）</p> <p>① 進路指導部及び学年の指導の結果、進路決定率はさらに向上した。</p> <p>年度によって進路希望の進学・就職の割合が変化することもあり、常に生徒の現状を把握していかなければならない。</p>	

<p>就職説明会（5回）  進学推薦面接指導（13名 複数回）  就職面接指導（68名 複数回）  分野別進路ガイダンス（1回：外部）  集団面接指導（1回：外部）</p> <p>② 生徒及び保護者に対して積極的に進路情報の提供ができた。  ・「進路の手引き」「進路ニュース」発行  ・保護者向け進路講演会  学校評価アンケートによると、職員は、「進路情報を十分提供している」81.8%とされているのに対して保護者は、「適切な進路指導が行われている」88.7%としている。  昨年度までは職員と保護者の意識にかなりの較差が見られていた点が解消に向かっているものと思われる。</p> <p>③ 2年生向けに卒業生講話を行ったり、1年生向け進路ガイダンスのパネラーに卒業生を起用したりするなどの取組を行い、大変好評であった。</p> <p>④ 定期的な面談週間を設け、生徒及び保護者との面談の時間を確保している。  生徒個人面談週間（4月、9月）  保護者面談週間（6月、11月）</p> <p>⑤ 高校生就職支援事業を受け、6月に企業訪問を実施した。  2月末の就職内定率は82.5%（内学校斡旋95.2%）となり、生徒一人一人に応じた粘り強い指導が実を結んでいる。</p> <p>⑥ LHRの時間や総合的な学習の時間を利用して、適性検査、進路説明会、求人票の見方、履歴書の書き方、敬語の使い方、面接の受け方等実用的な進路学習を展開した。  進路決定状況：大学・短大 55名  専門学校等 70名  就職 66名  未定 31名  進路決定率：86.0%</p> <p>⑦ 漢字検定、数学検定、英語検定、語彙・読解力検定等多くの検定試験に挑戦した。</p>	<p>② 進路全体説明会（PTA総会後実施）を土曜日に設定したこと、保護者の関心が高くなっていること等によって、保護者との進路情報の共有化と連携ができるようになった。  来年度に向けて、多様な進路希望を実現させるため、校内をさらに組織化して取り組んでいきたい。</p> <p>③ 来年度も、卒業生の関わる進路行事を取り入れていきたい。</p> <p>④ 年度によって、個々の生徒の進路希望が大きく変化することもあるので、個別面談は大変重要なポイントとして位置付けていく。女子の未定者への対応が課題である。</p> <p>⑤ 就職活動の長期化にともない、担当職員の負担が増加していることから、校内の役割分担を検討する。  外部機関との連携も検討していきたい。</p> <p>⑥ 進路指導部及び学年の指導の結果、進路決定率が安定している  未定者の中には、社会情勢の変化や経済不況の影響が家庭に及び、生徒の進路実現を困難にさせている場合もある。</p> <p>⑦ 将来のキャリア形成に向け、漢字検定、英語検定等は継続して挑戦させたい。</p>
---	---

<p>特別活動</p>	<p>① 校外学習をはじめとする体験学習を通して、生徒は新たな知見を得るだけでなく、友人等とのコミュニケーションの取り方も学んでいる。        沖縄への修学旅行は、民泊、平和学習をとおして貴重な体験をすることができた。「家庭科」授業における2年の保育園での保育実習、車いす体験等、コミュニケーション能力の向上に大変有効であった。</p> <p>② 全校及び学年毎に、通学路を中心に近隣の清掃活動を行っており、地域の評判も良い。        全校： 7月        1年：11月 2年 1月 3年 5月</p> <p>③ 4月末時点での部活動の加入率は、57.1%（昨年：53.5%）であり、増加している。        多くの生徒が放課後、休業日にそれぞれの部活動の活動場でいきいき活動している姿が清々しい。</p>	<p>① 校外学習についての見直しを行い、これまでの体験学習も視野に置きながら、進路希望の多様化に応える自己啓発活動を推進していく内容を検討する。</p> <p>② 清掃にこだわらずに地域に貢献できるものを考えていきたい。</p> <p>③ 活発になった部活動を統轄する組織として顧問間の連絡調整を図るため、部活動指導委員会の組織を整備していきたい。</p>
<p>特教 色育 あ活 る動</p>	<p>① 特別支援教育校内支援委員会は、時間割の中に組み込み、毎週定例の会議を行っており、軽度発達障害のある生徒等の支援について協議し、実際の支援を学年とともにを行っている。</p>	<p>① 特別支援が必要な生徒について、2次的な障害を防ぐために、早期発見、状況把握、対応を組織的に展開していきたい。</p>